



初恋は消耗品（2017）27歳と雑貨屋版

ハセガワアユム

登場人物

優菜【雑貨屋バイト】 . . . ゆな。いわゆる行き遅れてる27歳。初恋をこじらせている。

木下【雑貨屋店長】 . . . 雑貨屋の店長。人の悩みを聞く癒し系。癒しすぎているままで働いて来た店員や客にアプローチされる。

・舞台

雑貨屋の雑多な事務所。絵がいくつか飾って有り、ダンボールやラジカセなど並んでる。

・シーン1

【明かり】夜9時ごろ、閉店後。

店の奥にある事務所が舞台。

舞台中央にある、ソファに優菜が座り、手帳をみながらシフト提出用紙に記入している。

木下は着替えて帰ろうとしている。

優菜は顔は可愛いが、地味っ子と言われる部類。

店長は優しげな中年である。

優菜　・・発注、もういいんですか？

木下　うん、まあ、もう遅いし、いつFAXしても一緒だから、

ペンを回している木下。

木下 シフト、別に無理して出さなくてもいいよ。あとでメールでもいいし、

優菜 あ、でも締め切り過ぎてるし、店長に悪くて、

木下 うん、まあ、ありがたいけど、

優菜 授業メチャクチャで・・・この歳で、美大出たあと写真の専門学校行ってるってウケますよね。

木下 ウケないよ、別に（ふっと笑う）

優菜 ほら、ウケてる。

木下 ウケますよね、って言ったから

優菜 ほらあ、どーせサブカルクソ女ですよ。

木下 そんなことないよ、

木下は早く終わらないかなと、いう空気を醸し出す。

優菜は、時間がかかっているように見える。

間。

優菜、シフトを書きながら喋り出す。

優菜 バイトで、圭子さんっていたじゃないですか。

木下、動きが止まる。

木下 ああ〜、もちろん、覚えてるよ。

優菜 偶然、ハンズで会ってお茶でもって。

木下 へえ、

優菜 気が強いからか、あのひと、ずーっと恋愛したことなかったんですって。

木下 ……へえ、

優菜 信じられますか？ 27までですよ？ あ、言っちゃった。

木下 (照れながら) まあまあ

優菜 それでやっとの初恋してたんですけど、大失敗したらしくて。

木下 らしくて？

優菜 その失恋話はいくらつつこんでも全然教えてくれなくて、

木下 ……へえへえ

マグか何かお茶を飲もうとする、優菜、思い出し笑いをしてしまう。

優菜 （笑いをこらえつつ）教えてくれなかったくせに、その初恋ダメになった後に、できちゃった婚して赤ちゃん産んでたんです！

木下 ・・へえ、

優菜 それで「水臭いですよー、なんで赤ちゃん教えてくれないんですか」って言ったら「初恋こじらせたヤケクソ出来婚が失敗だった！」「もう離婚するからみっともない」ってサイゼリヤで泣いちゃって、吐きながら飲んでて。

木下 吐きながら飲むって、

優菜 酒癖悪いんですよ。

木下 確かに、酒癖は悪かったかも。

優菜 そしたら、圭子さんの旦那さんが迎えに来て、これがまた超々々々いいひとなんですよ！ 建築家やってて、お金も持ってるし、優しいし、いい年してデイズニーランド大好きで、鶴見辰吾に似てる激渋なんです。 ・・なのに離婚とか。絶対圭子さんに問題あるだろうって。

木下 ははは、あ、ごめん。

優菜、言いくそうに悶えながら喋る。

優菜 ええと、その、あたしも今年27なんです。

木下 そうなんだ、

優菜 圭子さんと一緒に、初恋まだなんで、怖いなあって。

間。

木下 優菜ちゃん、その、彼氏、とか、いたこと、ないの？

優菜 いないですね。可愛いんですけど。サブカルクソ女なんで。

木下 そんなことないよ、

優菜 ・・可愛くないってことですか？

木下 そうじゃなくて、

優菜 サブカル？

木下 よく働いてくれるし、クソ女ではないよ、趣味もいいし。

ふと目があうふたり。

木下 シフト（手を差し出しもらおうとする）
優菜 あ、ごめんなさい。話すの夢中になっちゃって、

冷蔵庫をあける木下。

木下 よくね、店閉めた後に事務所で、寂しく飲むんだよ。・・飲む？

優菜 いや、いいです、

木下 圭子さんみたくなっちゃう？（笑）

優菜 笑えないっす、

木下、立ち尽くす。

木下 じゃあ、俺、ちょっと飲んで来ようかな。シフト書いたら置いて鍵閉めておいてもらえる、

事務所を出ようとする木下。

シフトと手帳を持ったまま、入り口を封鎖する優菜。

木下、避けて通ろうとする。優菜がずれて封鎖する。

困る木下、今度は優菜が迫って来るので、逃げるように動く木下。

木下
なにになになになにに、

優菜
店長、ずっと、あたしの話、聞いててくれましたよね。

木下
え、

優菜
シフトさっさと出せばいいのって空気でも、優しかった。

木下
僕みたいな顔も良くないし金もないおっさんはね、優しさしかないから。

優菜
あだ名通りの「仏の木下」ですよね、

木下
そのあだ名もどうかと思うけど、

優菜
あたしも最初、みんな「仏」って呼んでるから、ここの店長死んでるのかと思いましたけど。

木下
殺さないでよ、

優菜
優しい。

手帳やシフトの用紙を手放し、木下の手を握り震えながら、

優菜 あたしの、処女、もらってもらえませんかあああああ！

木下 怖い怖い怖い怖い、

優菜 そんな、

木下 どういう告白なの？！ え、え、え、付き合うとか、そういうのじゃなくて？

優菜 こういふこともしたことはないから、

と、木下が飲もうと出していた酒を煽るように飲む。

木下 ああ~~~~

優菜 ごめんなさい！ 可愛いはずなのにキモくてこれがよお！

優菜、しかも咽せる。

木下 ああ~~~~

優菜 ゴフツゴフツ

木下 （背中をさすりながら） ・ ・ 大丈夫、そういう子って珍しくないから。

優菜 ・ ・ え？

木下 その、優菜ちゃんみたいな、女の子がね。

優菜 珍しくないんですか？

木下 ……うちの雑貨屋の空気と同じ、お洒落だけど、おとなしめな「地味っ子」のお客様も多くて、「仏」の接客だろ？ このひとなら人畜無害で大丈夫だろうって、

優菜 えええ？

木下 優菜ちゃんが入って来る、随分前か。(思い出し笑いながら) 店、閉めて出ると、もうなんていうの「出待ち」っていうの？ お客さんが。電話番号とかメルアド書いた手紙とか握りしめてき。…それと同じように、みんな悩みを握りしめてた。小さな手に。

優菜 ……へえ

木下 「恋愛したことなくて恥ずかしい」とか「痴漢にあつてから男性が苦手」とか相談を。

優菜 わわわ、

木下 ……悩みを抱えてた人は放つとけなくて。お付き合いすることもあつた…幾人かと。

優菜 いくにんかと(まじまじと木下を見る)

木下 そういう目で見ないで。だって、なかには、ひどいんだよ。事務所のファックスに、「一回でいいからしてくれなきゃ死ぬ！」って毎日送って嫌がらせしてくる子も居てさ。

優菜 ええ、

木下　こりややばいって。でも一回したら・・・ピタッと止まった。ファックス。

優菜　・・・

木下　だから、その、珍しくないってどうか。・・・わかるよ、優菜ちゃんの悩み。

優菜、木下を見やる。

優菜　実は、あたしは、こんなこというの、本当、仏の前でしか言えないんですけど、実は、その、処女を捨てたいっていうより。恋愛の練習がしたいんです。

木下　・・・れんしゅう？

優菜　圭子さん見ても、自分の友達見ても、初恋で付き合いはじめても結婚まで実らないじゃないですか。

木下　はつきり言うね、

優菜　でも本当でしょ？　店長もそうだったしょ？

木下　・・・まあね、バツイチだけど。

優菜　最初からうまくいくことなんてないのに。わかってるのに。なんで無駄な恋してるんだろって。意味なくね、って。

優菜、恥ずかしがりつつ、絞り出す。

優菜 あたし、結婚したいほど好きなひとがいるんです。だけど、その人と失敗したくないから。はやく、初恋つかっちゃいたっていかうか・・・

間。

木下 なんで、僕なの？

優菜 ……店長のセレクト、好きだし。（落とした）ここで買った手帳とか、真つ赤な唇のイラストに英語で「KISS YOU」って書いてあって、このセンスすっごいわかるなうって、

木下 ……んん、（小さく笑い）キスしたこともなかったんだよね、

優菜 キスはあります、

木下 え、

優菜 その好きな人と・・・キスだけ・・・

間。

優菜 その好きなひとつで、圭子さんがこれから離婚するひとなんです。

間。

木下 鶴見辰吾？

優菜 雰囲気が、

優菜、赤らめた自分の顔を手帳で扇ぐ。

優菜 あっつい、

木下、冷蔵庫に酒を取りに行く。

優菜 ダメですか？

木下 . . .

優菜 ダメですよね、

木下 . . . 怖い、

優菜 え？

木下 言い寄って来たお客さんと付き合ったりして、いいおっさんがみつともないけど、傷ついて、それで、もうそういうこと自体が怖いなって、

優菜 ……リハビリだと思えば、どうですか？

木下 ……

優菜 あたしは練習。店長はリハビリ。

木下 ……

優菜 もうこんなチャンスないですよ、あたしみたいな可愛い子となんのリスクもなしに付き合えるんですよ。

木下 ……(笑い) 言い方、そんな言い方、

優菜 ふ、ふふふ

ふたり、笑う。

木下 ……さっき言ったファックスの子とはね、嫌がらせされてたぶん、反動で燃え上がったって、

優菜 変態じゃないですか、

木下 どうかしてた。どうしていいかわかんなくて、最後、ひどい終わり方してね。

優菜
・・・

木下
本当にリハビリ、できるかな。

優菜、うなづく。

優菜
期間、決めましょうか。

木下
期間？

優菜
とりあえず、ワンシーズン？

木下
ワンシーズン、5月まで？

優菜
(手帳を見て) 5月20日まで。じゃあ今日が、記念日ってことで(考え)キスでもします？

木下
だめだめだめ、どういう？

優菜
あ、じゃあ写真、記念写真撮ります？(iPhoneを出し)

木下
だめだめだめ、え？好きなひとがいるんでしょ？それなのに男と写真撮ったりなんかしちゃだめ、

優菜
え、

木下
絶対にだめ、

優菜
勉強になります、

こんな遅くに電話が鳴る。

木下、電話を取る。

木下 はい、『キートン』店長の木下です。．．．あ、はい．．．どうされたんですか？ 発注ミス？

．．．（書類を見て）ああ、いや、そうですか。．．．いいですよ、こちらで引き取るんで。申し訳ありません。

謝り続ける木下。

後ろから、そっと手を繋いでみる。

驚くが、それを受け入れて行く木下。

【音楽と照明】ムーディな感じに変わっていく。

木下 ありがとうございます。では、その方向で。よろしくお願い致します。

【音楽と照明】変化がピークへ。

ふたり、不器用に手を繋いだまま。

【暗転】

・シーン2

【音楽と照明】 月日が経った事務所へ変換。平日の15時前。

手帳を手に、FAXの電話機から卸業者へ電話をかけている優菜。

優菜 ……そうなんです、くちびるの絵柄が。いままでのと変わってるんですよ。下代(げだい)も微妙に違うし、そちらで間違えてる商品なんじゃないかって。

間。

優菜 マイナーチェンジ？ うー、普通気づきませんか？ ……おんなじものだと嬉しいんですけど…

と、見えなもしないのに、健気に頭を下げる。

木下が入ってくる。手にはクラッチバックを持っている。

優菜 またかけ直します、失礼します（と切る）

木下 どうしたの？

優菜 発注の件でちよっと、

木下 ちよっと？

優菜 （誤魔化し）伝票が手書きだったんで確認してただけです

木下 そう（時計を見て）ちよっと早すぎない？

優菜 ああ、早く来て、その最近清掃してなかったからしとうこうかなって

木下 うちそんなブラックじゃないよ（笑）

優菜 あ、あ、（慌てて）あ、看板出しますよね。

伝票をFAX横にさっと隠すように置き、

事務所にある看板を出そうとする、

木下 それゴールデンウィークのキャンペーン終わったから書き換えないと、

優菜 あ、あ、そっすね、

木下 （時計を見て）あと今日は平日で19時オープンだから、1時間も早いよ、

優菜 ああ、そっすね、ああ、

木下 もしかして・・・あれ？

優菜 え、

木下、軽く優菜にキスをする。

優菜、まんざらでもない。

優菜 木下さん、

木下 これ目的かあ〜？

優菜 違います違います、仏、大胆！ でも、これは・・・どきどきします、

木下 職場はね、諸刃の剣だから、

優菜 勉強になります。

看板をティッシュで拭き、上からマジックで新しいポップを書きはじめる優菜。

優菜 木下さん、どこ行ってたんですか？

木下 え、

優菜 居なかったから。勝手に開けちゃいましたけど、

木下 ああ面接面接、

優菜 どんなひとだったんですか、

木下 うーん・ふざけた態度だったんだね、びしっと断って来た。

優菜 え、珍しい。赤の他人に強気なんて、

木下 なんかね、・リハビリの成果？ かな。なんて。ああ、自分は、間違っていないんだって思える

ようになつて来た。

木下、伝票を見つけて、

木下 あれ？ もしかしてこれ、あのくちびるの？

優菜 うお、超見つけるの早い、

木下 そりゃわかるよ、

優菜 これ、気づきました？ イラストも微妙に違うし、英語も「KISS YOU」じゃなくなってるんで

す。「DREAMS COME TRUE」って書いてあって、意味が、

木下 発売自体、去年のだし。ライセンスの問題じゃないかなあ、

優菜 ……ええ、欲しかったのに

木下 同じやつ？

優菜、手帳を出す。

優菜 だってこれ、木下さんとのデートで学んだこと、書き込みすぎてボロボロで。

木下 ああーこれはすごいね。

優菜 あと5日で終わっちゃうじゃないですか、あたしたち。

木下 そう、だね。

優菜 だから、新しい手帳に変えるにしても、同じのがいいなあっていうか、なんていうんですか、恥ずかしいんですけど、さっき木下さん来るまでクレームっていうか、在庫確認してて、

木下 思い出が、欲しいの？

優菜 ……そうですね、

木下 恥ずかしくなんかはないよ、人は思い出のなかで生きてくんだよね、

優菜 勉強になります、

とぱらぱらと手帳を見直す、優菜。

優菜　でも楽しかったな、木下さんと。デートしたの。

木下　そう？

優菜　（手帳のスケジュールを指し）この日のディズニー、木下さんのデート着とか、あのハット？
張り切りすぎ（笑）

木下　スプラッシュマウンテンで持ってかれたからね。

優菜　ははは。御殿場行ったのも楽しかったな。

木下　温泉とか。

優菜　（照れつつ）あの夜は色々とか指導いただきました、

木下　手習いではありません、

優菜　いえいえいえ、

木下　（照れて話題を変え）あの映画も面白かった！ガラガラだったけど。あのミュージカルのやつ、
優菜　ベルセバのね。

木下　優菜ちゃんのうんちくが、副音声すぎて、震えた。

優菜　伊達にサブカル嗜んでないんで、

木下 あそこでもキスしたね。

優菜 葉山の海も、江ノ島と全然違って綺麗だったし。

木下 江ノ島も楽しかったよ、

優菜 品川の水族館、新宿で超並んだタコス屋、（ ）、

木下 よく覚えてるね、

優菜 フジロックも行きたかったな、

木下 それはね、さすがにね。ほら、7月だから。

優菜 なんか白昼夢みたい、はくちゅう夢、

木下 難しい言葉知ってるね。

優菜 たまに思うんです、デートして帰って、ここ（手帳）に日記書いて、でもiPhone開いても写真ないから。本当にあったのかなあって。

問。

木下 写真はね、

優菜 ねえ、．．写真、一枚だけダメですか？

木下 ダメだよ。

優菜　お願い、絶対、誰にも見せないから。別れるんだし、

木下　ダメダメダメだって、鶴見辰吾にバレたらどうすんの？

優菜　お願い！

と、勝手にふたりの写真をインカメラで撮ろうとする優菜。
すごい勢いで自らブレる木下。

優菜　ちよっとなんでブレるの（ともう一回撮る）

木下　（すごい勢いでブレる）

優菜　一枚だけ（撮る）

木下　マズイって！ デジタルデバイス舐めたらやばいって（超揺れてブレる）

優菜　じゃあ、木下さんだけのソロでいいから！（連写）

木下　なんの意味があるんだああああ！！！！（分身の術のように左右に飛びブレまくる）

戦線をかき分けてiPhoneを奪う。

木下、優菜のiPhoneをソファに投げる。

木下 きみは鶴見辰吾と付き合おうんでしょ、

優菜 でも思い出くらい、

木下 甘いよ！！ なんのための練習だったの！！？

間。

木下 ごめんね、怒鳴ったりして。

優菜 うう、

木下 ちゃんと別れるまでが恋愛だから、「怒鳴り」も経験しといたほうがよかったかもしれない。

優菜 勉強になります、

と、手帳に書き込む。

木下 優菜ちゃんは、鶴見辰吾と、最近どうなの？

優菜 ああ、えっと、LINEでやりとりしてて、

木下 そっか、

優菜 圭子さんには内緒で罪悪感がありますけど、

木下　へえ、

優菜　でも木下さんのおかげで、どういふこと話したら相手が喜んで、どういふこと聞いちゃいけないのかって、わかってきた気がする、

木下　そりゃよかった、

優菜　わかんないときは、いきなりキスしちゃったから、

木下　ははは、

優菜　いままで、男の人とニしてても、全然続かなかったんです。あたしの吹き出しばかり溜まってて、全部ひとりごとみたいだったから。・・・嬉しい。

間。

優菜　この前、

木下　うん、

優菜　彼とディズニーシー行って。

木下　ランドじゃなくて？

優菜　シー。・・・楽しかった、です。

木下　おお、それはよかった。そういうなんていうの、フライング、じゃない、グラデーション、って

いうの、絶対あったほうがいいから。

優菜 いいんですか？　なんか悪くて言い出せなくて、

木下 大丈夫大丈夫、次の恋愛に繋げやすいから。

優菜 恋愛の話もしましたよ、もちろん木下さんの設定はいじってるけど、

木下 ・ ・

優菜 同じ専門学校にいる生徒だって、

大笑いする木下。

木下 あはははははは。

優菜 そんなおかしい？

木下 （笑いをこらえて）いや、続けて、

優菜 彼氏と別れそう、って話したら。なんかはじめて一人前の女として見てくれた気がして、

木下 よかったじゃん、

優菜 ・ ・ ・ありがとうございます、

変な間が生まれる。

優菜　でも、まだ離婚になんなくて。

木下　・・・へえ、

優菜　変ですよ、圭子さんが離婚するって言ったのに、

木下　・・・

優菜　それがちよつと辛いつていうか・・・まあ、しゃーないっす。

木下　・・・

優菜、書き終わった看板を持って行こうとする。

優菜　看板、出して来ますね。

木下　延長する？

優菜　・・・え、

木下　辛いなら、僕らの、もうちよつと、延長

優菜　・・・カラオケじゃあるまいし。

木下　そうだね、

優菜　延長って・・・

木下 （慌てて）ごめん、チケット言った、

優菜 チケットー？！

木下 いや、ツナギってどうか、あの、

優菜 終わりまでが恋愛って言ったじゃないですか。

木下 ・・

優菜 これでも一応「初恋」なんで。きちんと終わらせた方が、

木下 ・・

言いすぎた、と気づく優菜。

ふたり、気まぜくなる。

木下、手帳の品番を伝票に書きちぎって渡す。

木下 これ手帳の品番。

優菜 え、

木下 自由が丘店にはまだ在庫あるみたいだから、

優菜 いいんですか？

木下 必要でしょ？ きちんと終わらすなら。

優菜 …すみません、ありがとうございます。

優菜、頭を軽く下げて出て行く。

木下、ひとりになる。

もう一度、自分を把握するために、深呼吸をする。

そして電話をしようとポケットからスマホを出すと、

さきほど分身の術のように写真を避けた際にぶつかったのか、画面が割れている。

仕方なく、店の電話をつかいかける。

木下 …もしもし、圭子さん？ 店からかけてます。…まだいまサイゼリヤいます？ どうしても

話したいことがあって。…赤ちゃん、泣いてます？ 赤ちゃん、ちょっと静かにならないですか。…

・（届かないので声が大きくなる）あの、改めてお話ししますと、僕のこと忘れられないっていう気持ち
ちは、とても嬉しいんですけど、条件として、離婚してもらえないですか。…はい…一回だけっ
て、それじゃ、昔と一緒にじゃないですか、またFAX送りますか？ バイトにだって雇った、あの顛末繰
り返しますか？ ……たとえ今日みたく食事するだけだとしても、先に離婚して欲しいくらいなのに。
そうですよ、圭子さんには絶対に、離婚してもらわないと！ 僕は間違っていない！

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

初恋は消耗品（2017）27歳と雑貨屋版（おためしサンプル）

2017年5月13日 初版発行

著 者 ハセガワアユム © 2017年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
